

2018年7月28日

# 老子会会報

老子会 主催

第009号



## 老子会のモットー

「老子の道の精神を生かし、自分を変え、世界を変え、未来を変え、世界平和を構築し、人類の幸福を推進していく」ことをモットーとする。

老子



### 第53回老子会から

今回の老子会は2018年6月16日(土)15:00~17:00甲南大学6-33講義室で実施しました。

「『老子』の「不争」の徳について」というテーマで胡金定教授による特別講義を行いました。第68章の啓発から「不争」はイコール「平和」という精神のもと、人間社会で平和を構築していく重要性を強調する老子思想を学びます。

良い武人というのは猛々しくない。戦いが上手い者は怒りを見せない。勝利するのが上手い者は敵とは争わない。人を使うのが上手い者は相手にへりくだっている。こういうのを「争わない徳」と言い、「人の力を活用する」と言い、「天と並ぶ」と言って、古くからの法則である。

老子はまず「善く士たる者は武ならず（ほんとうの武人というものは武力をかざさない）」と説く。そして「善く戦う者は怒らず（ほんとうに戦う者は怒りによっては行わない）」というのである。怒りによる争いの勝利は怨みを残すからである。さらに「善く敵に勝つ者は与せず（ほんとうに敵に勝つ者は四つに組んで敵を完敗させるようなことはしない）」という。そしてなお「善く人を用いる者は之がために下となる（ほんとうに人を用いる者は相手の下手に出る）」という。

武ばらず、怒らず、完膚(かんぷ)なきまでにせず、上手に出ず。これがほんとうの勝者の為すべきことであり、万物を利する水のもようであれという。「為して争わず」、人為で争いのない世界をつくるのはむずかしい。

### 「善勝敵者不与（善く敵に勝つ者は与にせず）」

老子の「不争」という考え方は、「争わない」ということである。

「不争=争わないこと」「戦わないこと」こそが「徳」である。「徳」のある人ほど、いたずらに人と争ったりしないものだと言うのである。

うまく敵に勝つ者は、敵と戦わない。

さらに、「優れた戦士は怒りを表さないし、猛々しくもない」と説いている。

確かに、身近なところで考えてみても、人から慕われる上司はむやみに言い争ったりしないものではないか？ その分、「本気で怒った時は怖い」という方も多いと思うが、人と争って、力づくで相手を封じ込め、勝利を奪い取ったとしても、その反動は後になって必ず自分に返ってくるものである。力に任せて傷つけあって「勝ち」を手に入れようとするのは、「ありのままを大切にす「道」の教えに反している」と老子は戒めている。(胡金定)



## 老子が残した名言から学ぶ

## 第64章

## 原文

其安易持、其未兆易謀。其脆易泮、其微易散。爲之於未有、治之於未亂。合抱之木、生於毫末、九層之臺、起於累土、千里之行、始於足下。爲者敗之、執者失之。是以聖人、無爲故無敗、無執故無失。民之從事、常於幾成而敗之。慎終如始、則無敗事。是以聖人、欲不欲、不貴難得之貨。學不學、復衆人之所過。以輔萬物之自然、而不敢爲。

## 書き下し文

その安きは持し易(やす)く、その未(いま)だ兆(きざ)さざるは謀(はかり)易し。その脆(もろ)きは泮(と)かし易く、その微(び)なるは散らし易し。これを未だ有らざるに為(な)し、これを未だ乱れざるに治む。合抱(ごうほう)の木も毫末(ごうまつ)より生じ、九層の台も累土(るいど)より起こり、千里の行も足下(そっか)より始まる。為す者はこれを敗り、執(と)る者はこれを失う。ここを以(も)って聖人は、為すこと無し、故に敗るることも無し。執ること無し、故に失うことも無し。民の事(こと)に従うは、常に幾(ほと)んど成るに於(お)いてこれを敗る。終りを慎しむこと始めの如くなれば、則(すなわ)ち事を敗ること無し。ここを以(も)って聖人は、欲せざるを欲して、得難(えがた)きの貨を貴ばず。学ばざるを学ばず、衆人の過ぎたる所を復(かえ)す。以(も)って万物の自然を輔(たす)けて、而(しか)して敢えて為さず。

## 現代語訳

物事が安定している時にはそれを維持しやすく、不安定な兆しが見えないうちは問題に対処しやすい。柔らかな物は溶かしやすく、細かな物は飛び散りやすい。つまり問題というのは、それらが現実となって混乱が生じる前に対処すべきなのだ。一抱えもある大木も毛先ほどの芽から生まれ、大きな建物も土台を盛る事から始め、千里の道も一歩から始まる。そうした基本を忘れて何かをしようとするれば台無しになり、何かに執着すればかえって失う事になる。そこで「道」を知った聖人は余計な事をしないので台無しにする事もなく、物事に執着しないので失うこともない。人々が何かをしようという時は、あと少しで完成という所で油断して台無しにしてしまう。完成間近の時こそ始めの様に慎重にすれば、失敗する事などないのだ。だから聖人は欲望を抑え、貴重な品々には目もくれず、余計な知識を排除して、人々の行き過ぎた欲望や知識から焦りや油断が生まれぬようにする。こうして万物自然のありのままの姿を大切に、ことさらに何か余計な事をしないのだ。

## 分かりやすく

すべて物事は、安全の状態にしておけば維持することは易しく、それが未だ表面化しないうちに謀って対処すれば容易に治められる。それがまだ脆いうちであれば破るのは容易であり、微小な兆候のうちに対処すれば、散らしてしまうことは容易である。未だ形を成さざるうちに治め、いまだ乱れざるうちに治めることが大切である。合抱の木(一抱えもある木)も、毛の先ほどの芽から生じた物であり、九層の台(ウテナ・楼台)も一握りの土を積み重ねて造られており、千里の行程も足下の一歩から始まっている。あまり人為を為す者は事を壊してしまい、あまり執着する者はかえってそれを失う。聖人は無為自然である。だから事を壊すことが無い。執着しない、だから失うこともない。人民が事に従事する場合、いつでもほとんど事が成就しかかっているところで失敗している。終わりを始めの時のように慎重に行えば、失敗することが無い。「何事も小さなうちに対処することが大切である」と説き、次には「あまり人為的な策を用いたり、執着しすぎることは失敗につながる」という教えです。また、「最後の部分を慎重にやらねば失敗する」と終始一貫の対処方法を説いています。

## 最後の一步こそ慎重に

トラブルに対する初期対応の大切さを述べていると思われます。『老子』は、為政者に対して説いているので、私たちの日常でも十分納得できる教えと言えるでしょう。

私たちの日常でも心したい忠告と思います。

物事をなす時、開始早々に失敗するようなものは、しょせん實力以上のことの場合が多いようです。問題は、完成間近で失敗することへの対処なのですが、ちょっとした油断に起因することが多いことを語っています。「慎終如始(しんしゅうによし)」・・・、心すべき教えだと思います。

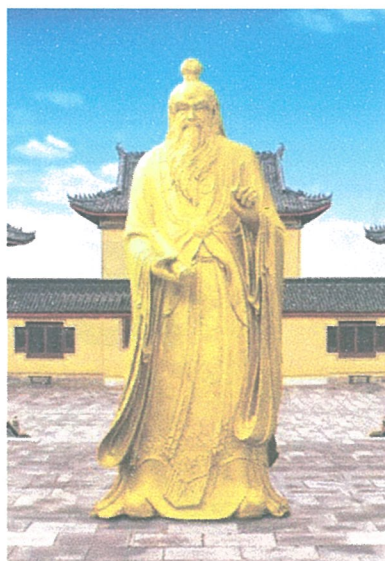
名勝旧跡に見る老子

中国廈門の「不爭公園」



廈門の「不爭公園」は2011年6月に創設されました。世界で初めて老子の精神を掲げて公共公園として公開されました。公園の面積は2.67万平方メートル。「老子文化区」、「社区生活区」、「講古文化区」の三つの区からなります。

その中最重要な「老子文化区」には老子の彫刻を中心に、「関を出る」、八十一章からなる『道德経』の彫刻で老子思想文化を示しています。





正松本さんは 岡山県出身、鳥取県に近い美作市で生まれました。湯郷温泉にほど近く、かの宮本武蔵の生地にも近い自然豊かな街です。冬になると、那岐山（標高1245）は雪におおわれ、春になっても消えることがないと言います。1975年からは高槻に居をかまえ、20年間を過ごしました。その後、阪神大震災の復興が進む中、奥様の実家がある神戸市灘区に移住、現在に至ります。

灘区のお住まいから甲南大学は約5キロ、地の利を得て大学の講演会にも度々足を運ばれています。胡金定先生との出会いも、そんな中めぐってきました。老子会ともご縁ができ、毎回のように勉強会に参加されています。1時間前には来学し交流を深めています。

会社は高槻市にある機械メーカー、間もなく定年を迎えますが、65歳まで元気に働きたいと決意されています。

写真のように坂本竜馬のような山本さん、向学の志は半端なく、学生時代も講義が好きで毎日のように通われていたようです。学生時代の仲間と中々、会えないのが残念なご様子ですが、老子会でも新たな人間関係が広がり、とても喜ばれています。「フェイスブックやツイッター、ラインを使って皆さんと連携を取っています。」とのこと。

「体力的には疲れる。」との事ですが、休日は「阪神電車ハイキング」に参加、ウォーキングを半日にわたり満喫されています。年8回開催されており、「道や建物、神社も覚え楽しい。」須磨や吹田のビール工場など、10キロほどで毎回歩くコースが変わるらしく、本当に楽しいご様子。酒蔵巡り、美しい海岸線、可憐な花との出会いなど、歩くことで街の空気を感じていらっしゃるようです。興味のある方は御一緒してみても如何でしょうか。

<老子会の皆さんへ>

今年は、高知の学外学習にも参加、八重桜しか残っていなかったが、夙川公園でも太陽のもとで老子会で話ができた。中国でも花見があると聞き盛り上がり、楽しい会話で来年も参加したい。大学から駅までの帰り道も話しながら楽しいです。会員の皆さんの会話も良いです。

(正松本光昭)

### 6月度「老子会」のご報告

老子会の皆様には、いつもご協力頂き誠にありがとうございます。6月度の老子会は、34名の出席の中、永井進治ギターリストによる演奏で、参加者を魅了しました。休憩後、胡金定先生は「争いを避けることは老子の教えの中でも重要な位置を占めている。なぜ争ってはいけないのかそのメリットとデメリットについて、いろんな角度から詳しく講義がありました。交流会は「とらの穴」で行い大いに盛り上がりました。7月は、老子漫画第2話「美言と信言」を読ませしフリートークで理解を深め合いたいと存じます。猛暑が続きますが、くれぐれもご自愛くださいませ。

#### 【今後の日程】

8月25日（土）午後15時～17時 第55回老子会 午後18時30分～ 交流会「とらの穴」  
9月29日（土）午後17時～20時 第1回老子会総会「道頓堀ホテル」（詳細は改めて御案内します）  
(石井政 事務局長)



老 子 会

〒658-8502

神戸市東灘区岡本8-9-1

甲南大学 国際言語文化センター 胡金定研究室

電話: 078(435)2353

FAX: 078(435)2545

E-mail kokintei@center.konan-u.ac.jp